



↑開発前の航空写真をしながら振

和風庭園に樹齢38年 中村さん夫婦(藤塚)

日進の木・キンモクセイ物語

「つい先日、シルバーの庭師さんにお願いで、すつきりと刈ってもらいました」

立春を感じさせる陽気の2月、立春を感じさせる陽気の2月、中村益男さん(84)、佳子さん(80)夫婦は、こんもりと剪定された庭木のキンモクセイを見上げて語った。

日進おりど病院南の道路を西へ進むと、藤塚の閑静な住宅地が広がる。その中で昭和50年代に造成、分譲された東昭団地に夫婦は暮らす。日進に移り住んだのは昭和54年8月。自生する18本ものマツを生かした和風庭園を造った。

佳子さんによると、当時町の行事でキンモクセイの苗木を配る列に並んだという。植え込んだ苗木は、もったり買ったりした5、6本で、今は3本が育つ。高い木で樹高は3mを超え、樹齢は38年近くになる。今ではマツも半数に減ったが、キンモクセイと並んで存在感を放つて

いる。

益男さんは元銀行マン。引越してきた40代半ばの頃、赤池・八事間で地下鉄が開通し、名鉄豊田線とつながった。沿線地域では加速度的に住宅開発が進んだが、サラリーマン時代は人との交流はほとんどなかった。「退職して自由になり10年間福祉関係のボランティアに携わり、健康のことも考えるようになりました」と振り返る。

市制後の日進市の成長に関心を抱き、経営的視点で市政運営を見守る。「くるりんばすの導入は早く、エコドームや図書館も面期的。広域行政も先進的な取り組みの一つ」と評価しつつ、「受益者負担はやむを得ない。文化や教養の香りをこれからは大切にできれば」と願う。

同組合は、役目を終えて来年度解散の予定です。加藤理事長は「元々高齢者が多い区域でしたがまちが若返って活気が出てきました。子ども

にとつてはここが故郷です。大切に育てていきたいですね」と満足げに話していました。



4、5年前には、団地内の下水道整備に絡んで各家庭を回り、「80歳を超す世帯や空き家も増えた」と実感した。家に閉じこもってはいけなないと、佳子さんは毎週くるりんばすに乗ってマツサージに通い、益男さんは週4日グラウンドゴルフの練習に出掛ける。

結婚56周年を迎え、二人は木の前でこう誓った。「ここまで生きられるとは思わなかったなあ。昨日と同じ今日を生き、明日を一緒に生きよう」(広)

笑顔 そして、未来へ

鈴木めぐみさん、凧ちゃん、美琴ちゃん (香久山)

公園で遊ぶのが好きで、市内の公園はほとんど行きました。最近、鉄棒で連続逆上がりの練習を頑張っています。バイオリンとピアノも習って、コンサートにもよく行きます。将来は、宇宙飛行士になりたいです。(美琴ちゃん)



横山健さん 浩輝くん、千夏ちゃん (浅田町)

家族みんな運動が大好きで、時間があればスポーツセンターでトランポリンを練習しています。日進に住んで3年になりますが、行事がたくさんあって楽しいですね。にこにこウォークやスポーツフェスタなど、いろいろ参加しています。

